

○報告事項

教育委員会6月定例会について

○質問項目

- 1 令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜要綱について
- 2 令和7年度スーパーアスリート育成事業について

司会）

それでは定刻となりましたので、教育長の定例記者会見を始めさせていただきます。

まず、本日開催いたしました教育委員会6月定例会につきまして、淀谷教育長より報告させていただきます。

教育長）

6月の教育委員会定例会の内容をご報告いたします。議案が3件、その他事項が2件でございます。

議案第1号は、高速艇に係る通勤手当に関する規則の一部改正についてでございます。

令和7年6月1日から高松港と宮浦港間の高速艇の運賃及び料金が変更になることに伴いまして、所要の改正を行うものでございます。

議案第2号は、令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜要綱についてでございます。

お手元に資料提供させていただいております。

来年の春に行われる令和8年度入学者選抜の日程や選抜方法など、基本的な事項を定めた要綱について、お諮りいたしました。また、令和8年度入学者選抜の自己推薦選抜及び一般選抜において、インターネット出願システムによる出願手続き等を導入する旨を別紙にてお知らせしようとするものでございます。

議案第3号は、令和7年6月香川県議会定例会に提案予定の教育委員会関係議案に対する意見についてでございます。

6月県議会定例会に提案される予定の教育委員会関係議案について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく知事からの意見聴取に対し、異議が無い旨の回答を行うものでございます。

その他事項の1件目は、令和8年4月採用 香川県職員（学校事務（職務経験者型））採用試験についてでございます。こちらは5月29日に資料提供してございます。

今年度実施する香川県職員（学校事務（職務経験者型））採用選考試験について、申込方

法などに関する試験案内を作成し、現在、受付期間中ですので、その内容について報告いたしました。

令和8年4月の採用予定人数は、4名程度の見込みでございます。

受験者の負担軽減を図るとともに、県外からの人材獲得につなげるために、今年度から選考方法等の変更を行っております。

多くの方々に応募していただくことで、意欲のある職員を確保したいと考えておりますので、報道機関の皆様方には、今後とも採用関係の周知にご協力をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

その他事項の2件目は、令和7年度スーパーアスリート育成事業についてでございます。お手元に資料提供してございます。

令和7年度の「スーパーアスリート育成事業」の指定選手について、ご報告したものでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

司会)

それではご質問等ございましたらお願いいたします。

記者)

入学者選抜要綱についてですけれども、前年度までとの変更点を伺えますか。

教育長)

一番大きい変更点は、一般選抜・自己推薦選抜ともに、インターネット出願で行うことでございます。

出願の場合、中学校が高校に願書を持参して提出していたものが、システムによって、高校に願書データを送信するという手続きになります。志願変更の手続きも同様になります。

また、入学選考料につきましては、クレジットカード決済などによって行うことができるようになり、受検票についても受検者（自身）が印刷します。

そして、合格発表については、掲示板と学校のホームページで掲示して発表しておりますが、令和8年からは合否照会サイトにおいて発表する。

そういったことが変更になる予定でございます。

記者)

合否を照会サイトで発表するという事なので、もう学校の掲示板で貼り出すということとはなくなるのでしょうか。

教育長)

なくなります。

記者)

個人が(インターネット上で)確認するということになるんですね。

受検生が受検票を印刷するというのは、これはどういうやり方で。フォーマットみたいなものが各受検生に届くということでしょうか。

教育長)

(システム) I Dを入力して印刷するということです。

記者)

出願と志願変更方法ですけれども、学校が取りまとめてやるというかたちには変わりがないということですか。

教育長)

そうです。学校が受検者個人の入力作業について確認し、手伝ってあげながら送信するということです。

記者)

送信するのは中学校が、ということですか。

教委担当課)

個人が入力し、それを中学校が確認をして、中学校がまとめて送信するということです。

記者)

個人が必要事項を入力して、学校側がこれで間違いないかというのを確認したうえで、送信は学校が行うと。個人入力だと入力漏れがあったりとかすると思うんですけど、それが起きない仕組みになっているということですね。

教育長)

(学校が)確認もするし、再入力も可能なシステムにすると(担当課から)聞いています。間違いがあれば修正することは可能です。

記者)

決められた期間、例えば一般選抜だったら、2月16日から17日の間なら変更ができるということですね。

願書データを提出ということですけど、これはファイルを添付してということになる

んですか。

教育長)

入力画面でフォーマットに入力する。

記者)

志願変更で、願書データの返還を求めるというのはどういったかたちで行われるんでしょうか。

教委担当課)

一旦、出願したものを志願変更する場合は、システム上で（出願データを）取り戻せるかたちになっています。

記者)

（出願先の）学校側に1回送ったものが、（返還されると）学校側からは見られない状態になるということですね。それでまた、変更先のところに同じように手続きをすると。

日程についても変更は特になideしょうか。

教育長)

ないですね。時間的なものはあるけど。紙ベースのときだったら16時までというのがありました。

記者)

志願変更については土日を含みますけど、これは土日でも受け付けできるということでしょうか。でも、学校が確認手続きしないとイケないので、基本は平日ということでしょうか。

教育長)

基本は平日です。システムが開いているのは開いているので、土日に変更しようと思えば可能ですが、それを推奨するわけではない。

記者)

学校側に本人が（志願変更の）意思を伝えて、学校側が作業することはあり得るということですか。

教育長)

そうですね。そこが期間では一番変わっているところ。紙ベースだったら絶対（平日の）16時までに持って来てということだったが、システムが開いている間は作業可能です。

記者)

期間的にもちょっと長い。

教育長)

そういう意味では長いですね。

記者)

去年までが2日半だったのが、6日間になると。

教育長)

意識して期間を長めに設けたというよりも、システム化して土日も作業ができるようになったということです。

記者)

他の変更点はないですか。

教育長)

日付くらい。

記者)

昨年度と今年度の要綱では、出願方法が変わったくらいで他は特に変更ないと。

教育長)

ないです。出願方法、合格発表方法など資料別紙の手続き以外に、内容的に変わったということはない。

記者)

掲示板での発表がなくなるということについては、例えば、記念写真を撮りたかったとかいう生徒もいるのかなと思うんですけど、そういった議論はされたんでしょうか。発表自体は、別に電子化しなくてもという方法はあると思うんですけど。

教育長)

他県の先行事例を聞いていると、そういうやり方をしている県がありますから。

インターネット出願システムを導入している県はだいぶある。県内私立学校も導入しているところもあるが、こういうやり方だったと聞いている。

記者)

可否発表まですべて電子化することなんですね。

記者)

インターネット出願システムの件で、ちょっとイメージが湧きにくい。生徒・保護者からすると、何か共通の香川県公立高校入試システムみたいなものがあるということですか。自分のIDを入力して、高校を選んで、学科を選んで、送信する。

教育長)

去年までの出願用紙が電子化されたイメージで結構です。

記者)

家で各個人がやるんですか、それを学校もチェックするんですか。

教育長)

学校もチェックします。

記者)

学校が何々高校に出願する何人分を一斉送信するみたいな。それとも、一人一人ですか。

教委担当課)

一斉にします。

記者)

それは(出願する)高校ごとか、それとも400人いる学校なら400人分を(一斉に)ですか。

教委担当課)

今後、設計していくうえで決めていく部分になる。ただ、中学校長が最終的に出願するのは変わっていないです。

記者)

一番早くて自己推薦が1月じゃないですか。いつぐらいまでにシステムができる予定ですか。

教育長)

試運転もしなければいけないので、秋にはと考えている。

記者)

目的としては利便性の向上で、双方の負担軽減というのがあるんですけど、一方で、リスクというか、システム上なのでデータが飛んだりとか、こないだあったようなサイバー攻撃みたいなことも懸念としてはあると思う。そのあたりはいかがでしょうか。

教育長)

起きないようにしっかり監視していく、セキュリティレベルも高めるということかなと考えている。

記者)

出願自体は、紙と併用ではなく完全にこちら（システム）で。

教育長)

はい。

記者)

調査書類は直接提出ということですか。

教育長)

はい。これ（調査書類）は、データ化できないので。

記者)

ゆくゆくは（していきたいのか）。

教育長)

ゆくゆくは（データ化）していきたいと考えている。校務支援システムの中に入っているデータでもあるので。なお、さらに高度なセキュリティも含めて考える必要もあると考えている。

記者)

令和9年度を目指すとか、そこまでは。

教育長)

そこはまだ考えていない。

記者)

学校からしたら、出願はインターネットサイトでやって、調査書は持って行く。それは同じ期間ですか。

教委担当課)

期間は別です。

資料１ページ目、例えば、自己推薦選抜だと、（１）願書受付期間でシステム上で送付をし、（２）出願関係書類受付期間で調査書等を学校に持って行く。

記者)

志願変更も終わってから出しに行くということですね。

教育長)

はい。

記者)

同じ質問になるが、合格発表を掲示板で発表しないというのは、我々世代からすると少し寂しい。記念というか、思い出になる部分もあったりするのかなと思うんですが、やっぱり時代の流れ的にはそういう方向なんでしょうか。

教育長)

今回ネット出願にしましたと。結果そうだったということ。

記者)

併用もできるのはできるのかなと。（インターネットで）見たい人は見るし、貼り出すのは貼り出すという方法も選択肢としてはあったかなと。

教育長)

何のためのネット出願かということですから、やはり双方の事務負担の軽減が目的の一つでもある。

記者)

インターネット出願システムの導入で他県の状況がわかれば教えてください。

教委担当課)

中四国で言いますと、既に広島県、岡山県が導入しています。今年度実施する令和８年度選抜からは島根県、山口県、愛媛県が導入することを発表しています。全国的な動向として、令和７年度における導入状況は、１９都道府県で導入されています。

記者)

調査書もインターネットでオンライン化しているところもありますか。

教育長)

岡山県はしているようです。

記者)

発表方法についても他県の状況がわかるのであれば。

教育長)

それは調べていないです。

記者)

岡山県は貼り出していましたよね。

記者)

貼り出しのことで、学校側の負担にもなっていたということがあるんでしょうか。

教育長)

負担というか、その作業がなくなるだけです。今まで貼っていた、今後はやめます、その作業がなくなるというだけです。

記者)

(貼り出しを)なくさないでもという意見も、私がというか、あるのかなと思ひまして。

教育長)

確かに(そういった意見も)ありますよね。今日の教育委員会で、教育委員からはそういった意見はなかったですが。

記者)

電子化の趣旨に沿うような流れということですが、学校側が全部数字を書いて貼り出してというのが作業としてはあって、それがなくなると。

教育長)

そうですね。

記者)

これまではその場で合格発表があつて、生徒が自分は合格とわかったうえで、その場で学校に手続きするという事はなかったですか。

教育長)

書類を学校でもらっていた。

記者)

合格発表をその日に家で見たうえで学校に行くということですか。

教育長)

そうです。

記者)

出願入力のイメージがちょっと湧かないんですが、中学3年生が、家で、タブレットなり、自分のパソコンなり、あるいはスマホなり、デバイスを3つぐらい想定した中でどういうかたちで入力するのか。例えば、先生と面と向かって、こうだからもうこうだよ、じゃあ出願入力しようかというかたちでやるのでしょうか。

教育長)

やり方はいろいろ。ただ、イメージだが、一番多いのは学校でやるのが多いのかなと。

記者)

学校で個々の進路指導を先生が一对一で生徒とやった後に入力するみたいなイメージなんですね。いわゆるタブレット上でやるという、そういうパターンですか。

教育長)

今から中学校との間でも、どんなやり方とか、一つ一つ話し合いしながら詰めていくようになる。

今までも、紙の願書を先生の前で書いていたとは思えない。

教委担当課)

丁寧な学校においては、出願の書類を整えたうえで、親御さん同席で、最後の名前を書いてももらったり。そういった中学校もあったと思います。

教育次長)

自由度が上がるということ。今まで（のやり方）に加えて、家で入力することもできる。

記者)

親御さんが、子どもがタブレットを開いて願書を入力するのを一緒に見ながらやるということも可能になるんですね。

教育長)

どんなデータが入っているか、学校側でも確認できる。入力できた、できていないとか。

記者)

もう1点、クレジットカード決済又はコンビニ決済とあるが、カード決済は付けられますか。

教育長)

付けられます。

教育次長)

すでに県内でも私立高校とか高専は導入済みです。なので、保護者の方が慣れているかもしれない。大学入試もほとんどこれ(カード決済)です。

記者)

スーパーアスリートの件で、今年度24人ということですが、これは人数的には過去と同規模な感じですか。

教育長)

去年は25名なので、同じぐらいです。

記者)

大体これぐらいの人数で選んできているんでしょうか。

教育長)

そうですね。

記者)

いつからやっているんでしょうか。

教育長)

平成25年度からだったと思います。

記者)

平成25年度からやってきていて、国際大会なり、国内大会なり、実績的な部分というところはどうでしょうか。

教委担当課)

日下^{くさか} 尚^{なお}選手もスーパーアスリート（出身）。花車^{はなぐるま} 優^{ゆう}選手も。

司会)

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、教育長定例記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。